

授業科目名	音声障害	授業形態	講義	配当学期	2年（前期）
担当教員名	島本 裕士	単位数	1単位	時間数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>音声障害に対する医師と言語聴覚士の役割を知る。 原因疾患や病態を知り、適切な評価・訓練法を学習する。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>疾患の理解・評価・訓練法の習得を目標とする。</p>				
授業回数	授業内容				
第 1 回	p3 オリエンテーション・音声障害とは ※1年のディスや呼吸器系の講義の復習の意味づけ、復習してから来てほしい				
第 2 回	p5 音声障害の分類 器質性・神経学的・機能的 ※難聴と同じように音声障害は原因別にわけられる、それを説明する				
第 3 回	p9 音声治療の流れ ※音声治療の流れを説明する、医師とSTの役割が違うことを理解してほしい				
第 4 回	p11 評価と訓練総論 ※評価は1年後期のディスや耳鼻科の復習をしてから来てほしい				
第 5 回	p16 症状対処的音声治療① ※声帯の緊張を変える訓練を中心に行う				
第 6 回	症状対処的音声治療② ※声帯の緊張を変える訓練の続きおよび、声の高さを変える訓練を行う				
第 7 回	症状対処的音声治療③ ※声の高さを変える訓練の続きおよび声を強くする訓練を行う				
第 8 回	p24 包括的音声治療① ※発声機能拡張訓練を中心に行う				
第 9 回	包括的音声治療② ※Lessac-Madsen共鳴強調訓練を中心に行う				
第 10 回	包括的音声治療③ ※アクセント法を中心に行う				
第 11 回	p34 心因性発声障害・無喉頭音声治療と訓練・ディサースリアと音声治療① ※ゲップができるようになってから来てほしい				
第 12 回	心因性発声障害・無喉頭音声治療と訓練・ディサースリアと音声治療② ※気管切開について耳鼻科で習っていると思うがもう一度説明する				
第 13 回	p41 問題を解く ※1-12コマの知識でグループで問題を解く				
第 14 回	p43 グループワーカー問題作成① ※問題作成者側の立場にな立てば重要なことが見えてくる				
第 15 回	グループワーカー問題作成② ※問題作成者側の立場にな立てば重要なことが見えてくる				
評価方法	定期試験で評価します（100%）				
教科書 参考図書	〔教科書〕 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 第3版				
	〔参考図書〕 STのための音声障害診療マニュアル（インテルナ出版） 音声障害（言語聴覚療法シリーズ）（建帛社）				
履修上の 留意点	配布資料は1冊にまとめ、シラバスにページ番号を記載した p45からの補足部分は講義の時間が余ったところで説明する				
メッセージ	疾患・評価・訓練・国家試験と幅広く行うので、耳鼻咽喉科学や運動障害性構音障害の復習が望ましい。				